

| 方剂名 | 効能 | 生薬組成 |
|----------------------|---|--|
| 書籍 | 主治および証 | 病機 方意 |
| 補益剤 補陰剤 18 | | |
| かげんふくみやくとう 加減復脈湯 | 滋陰清熱 | 炙甘草 18g・生地黄 18g・生白芍 18g・麦門冬 15g・阿膠 9g・麻子仁 9g 水煎し服用する。 |
| 温病条弁 | <p><主治> 肝腎陰傷 微熱、手の平足の裏がほてる、口乾、動悸、元気がない、うとうとする、甚だしいともうろう状態、聴力減退、舌のこわばり、舌質が紅絳、少苔、脈が虚大あるいは遅で結代などを呈す。</p> <p><病機> 温熱病の後期で、温熱の邪が肝腎の陰血および真陰を消耗し虚熱内盛になった状態で、「邪少虚多」の症候である。 虚熱があるために微熱が続き、経脈を通じて手掌（手心の労宮穴）や足蹠（足心の湧泉穴）に熱が伝わるので手のひら足の裏のほてりが生じる。津液も不足して口に上承できないので、口乾がある。腎陰が虚して心を上済できないために、心陰が虚して心神が養われず、動悸、うとうとする、甚だしいともうろう状態を呈する。腎精が耳竅を上栄できないので聴力減退が、舌根は腎に系り、腎陰が不足するために舌のこわばりがみられ、陰精が気を生じないので元気がない。舌質が紅絳、少苔は陰虚火旺を、脈が虚大は真陰が不足して気が依附するところなく上浮していることを示す。脈が遅で結代するのは陽気不足ではなく、真陰耗損で血液が濃縮し渋滞しているためである。</p> <p><方意> 邪少虚多であるから、滋陰を主体に清熱を佐とした治方を用いる。 甘温の炙甘草は益気生津に、酸渋の白芍は補血斂陰に働き、更に酸甘化陰により陰液を滋養する。生地黄・麦門冬・阿膠は滋陰補血し、阿膠は真陰も滋補し、麻子仁は潤腸通便に働く。なお、白芍・生地黄・麦門冬は寒涼で虚熱を清する。全体で滋陰養血、補真陰、清虚熱の効能が得られる。</p> <p><参考> 本方（加減復脈湯）は、「傷寒論」の炙甘草湯の加減である。 傷寒においては寒邪が傷陽して脈が結代するので、炙甘草湯には、益心気、通心陽の炙甘草・人参・桂枝・生姜・大棗が配合されている。 温病で現われる脈虚大や遅で結代は、陰虚血渋によるために滋陰が重要で白芍を配合しているのであり、益気、通陽の温薬は、傷陰の恐があるために人参・桂枝・生姜・大棗を除いている。 温病条弁の条文の解説によると、下記の記載がある。</p> <p>「風温、温熱、温毒、冬温は、邪は陽明に在って久しく^{とどま}羈り、あるいはすでに下し、あるいは未だ下さず、身熱し面赤く、口乾き舌燥き、甚だしければすなわち齒黒く唇裂し、脈沈実のものは、なおこれを下すべし。脈虚大、手足心熱は手足背より甚だしきは、加減復脈湯これを主る。」 陽明燥熱が停滞して傷陰が続き、「身熱し面赤く、口渇き舌燥き、甚だしければすなわち齒黒く唇裂す」を呈しているも、「脈沈実」を呈する腑実内停の場合には、急下存陰で、腑実を攻下によって除くべきである。しかし「脈虚大、手足心熱は手足背より甚だしき」で真陰耗損を呈しているときは、「無水舟停」の便秘であるから、加減復脈湯で陰を回復させるべきであり、攻下してはならない。</p> | |
| きゅうぎやくとう 救逆湯 | 滋陰清熱 | 加減復脈湯 一麻子仁 十生竜骨 12g・生牡蠣 24g 水煎し服用する。 |
| 温病条弁 | 誤って解表剤を用いて、汗が止まらなくなった状態に用いる。 発汗によって気津を消耗し、気虚のために固表できなくなって汗が止まらないもので、陰陽共に亡脱する恐れがある。 加減復脈湯に生竜骨・生牡蠣を加え斂汗固脱するが、散脈を呈するのは虚脱であるから更に力の強い人参で益気固脱する。滑泄の麻子仁は除いている。 | |
| いちこうふくみやくとう 一甲復脈湯 | 滋陰清熱・止瀉 | 加減復脈湯 一麻子仁 十生牡蠣 30g 水煎し服用する。 |
| 温病条弁 | 泥状便や頻回の下痢を呈するときに用いる。 傷陰があるのに下痢が続くと更に陰液が虚すので、加減復脈湯に寒洩鹹の牡蠣を加えて固摂洩腸、止瀉存陰すると共に余熱を清する。滑泄の麻子仁は除いている。 下痢が甚だしい場合には、滋陰が裏目になることがあるために先ず一甲煎（牡蠣末60g）を用いた後、一甲復脈湯で治療を徹底する。 | |
| にこうふくみやくとう 二甲復脈湯 | 滋陰養血・潜陽熄風 | 加減復脈湯 十生牡蠣 15g・生鼈甲 24g 水煎し服用する。 |
| 温病条弁 | 傷陰による虚風内動の初期で、四肢の筋肉がびくびく引きつったり、けいれんするときに用いる。 腎精大傷で肝が滋養されず、筋脈失養により拘急（ひきつり）、びくびくひきつる、けいれんなど虚風が生じているので、加減復脈湯に潜陽熄風の牡蠣・鼈甲を加えている。 | |
| さんこうふくみやくとう 三甲復脈湯 | 滋陰養血・潜陽熄風・安神 | 加減復脈湯 十生牡蠣 15g・生鼈甲 24g・生亀板 30g 水煎し服用する。 |
| 温病条弁 | 傷陰による虚風内動と共に、強い動悸、甚だしいと胸痛などを伴うときに用いる。 傷陰のため心陰も不足し、心神が榮養されず不寧になってつよい動悸が生じたり、心絡失調によりけいれんがおこり胸痛を引き起こしているため、加減復脈湯に滋陰潜陽、養心安神の亀板を加えている。 | |